

データ集

(京都における文化芸術に関するデータ)

①美術分野

■人材状況（ヒト）（彫刻家、画家、工芸美術家）

●【プロ層】人口比で非常に多く、京都市は東京都区部について2位

図1-1 美術家数（2020年）

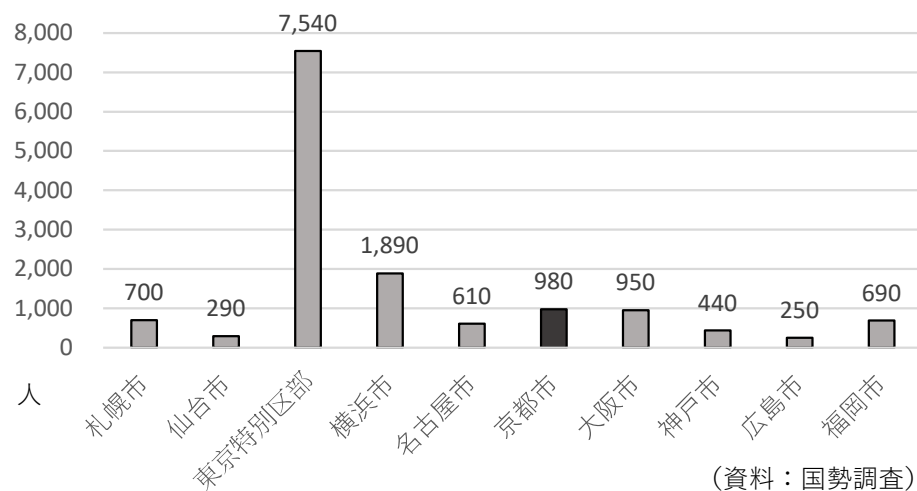
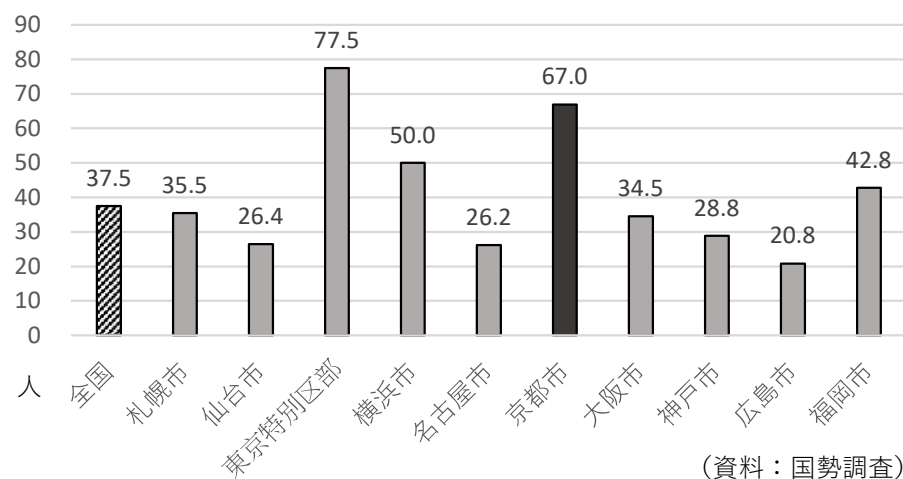


図1-2 人口10万人当たり美術家数（2020年）



●【プロ層】全国のプロ数は増加傾向であるのに対し、京都市は減少傾向

図1-3 全国のプロの美術家数の推移

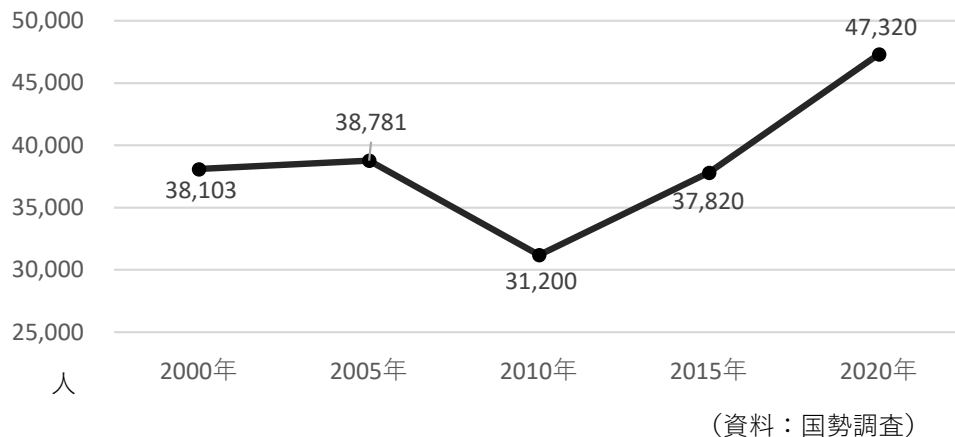
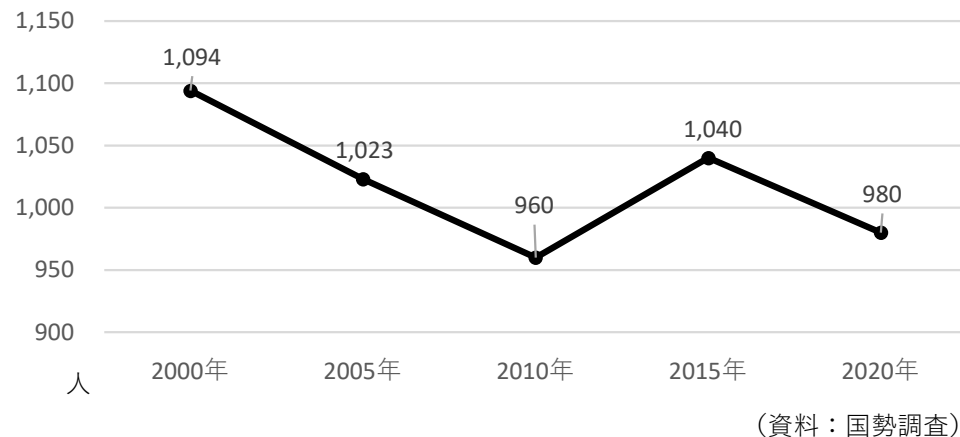


図1-4 京都市のプロの美術家数の推移



①美術分野

■活動状況（コト）（社会生活基本調査より）

●【アマチュア層】京都府において絵画・彫刻に取り組む人の割合は比較的高いが、陶芸・工芸は平均的

表1-1 趣味として作品制作をしている行動者率(単位: %)

	2006年		2011年		2016年		2021年	
	絵画・彫刻	陶芸・工芸	絵画・彫刻	陶芸・工芸	絵画・彫刻	陶芸・工芸	絵画・彫刻	陶芸・工芸
全国	3.5	2.5	3.2	2.2	3.5	2.2	3.4	1.6
北海道	2.7	2.7	2.7	1.9	3.7	1.9	3.1	1.3
宮城県	2.7	3.0	3.0	2.4	3.1	2.6	2.5	1.8
東京都	4.5	3.1	3.8	2.6	4.7	2.9	4.5	2.1
神奈川県	5.2	3.3	4.3	2.5	4.6	2.7	4.0	1.9
愛知県	3.3	2.9	2.8	2.5	3.4	2.6	3.5	2.0
京都府	4.4	2.7	3.7	2.6	3.9	2.9	4.4	2.0
大阪府	3.7	2.8	3.3	2.5	3.6	2.3	3.5	1.4
兵庫県	4.0	2.2	3.3	2.3	4.2	2.1	3.7	2.0
広島県	3.4	2.4	3.3	2.0	2.6	2.4	3.5	1.2
福岡県	3.4	1.8	3.1	2.0	3.8	1.8	3.2	1.5

(資料: 社会生活基本調査)

●【鑑賞】京都府における美術鑑賞者の割合は比較的高い

表1-2 京都府民の美術鑑賞行動者率の推移(単位: %)

	2001年	2006年	2011年	2016年	2021年
全国	20.5	18.5	16.5	19.4	11.4
北海道	18.7	14.6	13.3	14.6	8.8
宮城県	17.0	14.9	12.3	18.3	9.2
東京都	28.9	28.0	23.7	30.2	17.8
神奈川県	23.7	22.0	21.4	23.2	12.3
愛知県	21.8	19.2	16.7	18.9	12.1
京都府	25.9	22.4	20.1	23.9	15.4
大阪府	19.5	18.9	15.0	18.7	11.7
兵庫県	20.5	18.8	18.6	18.7	12.4
広島県	25.3	20.4	18.4	20.3	11.4
福岡県	18.7	18.4	15.6	18.0	11.1

(資料: 社会生活基本調査)

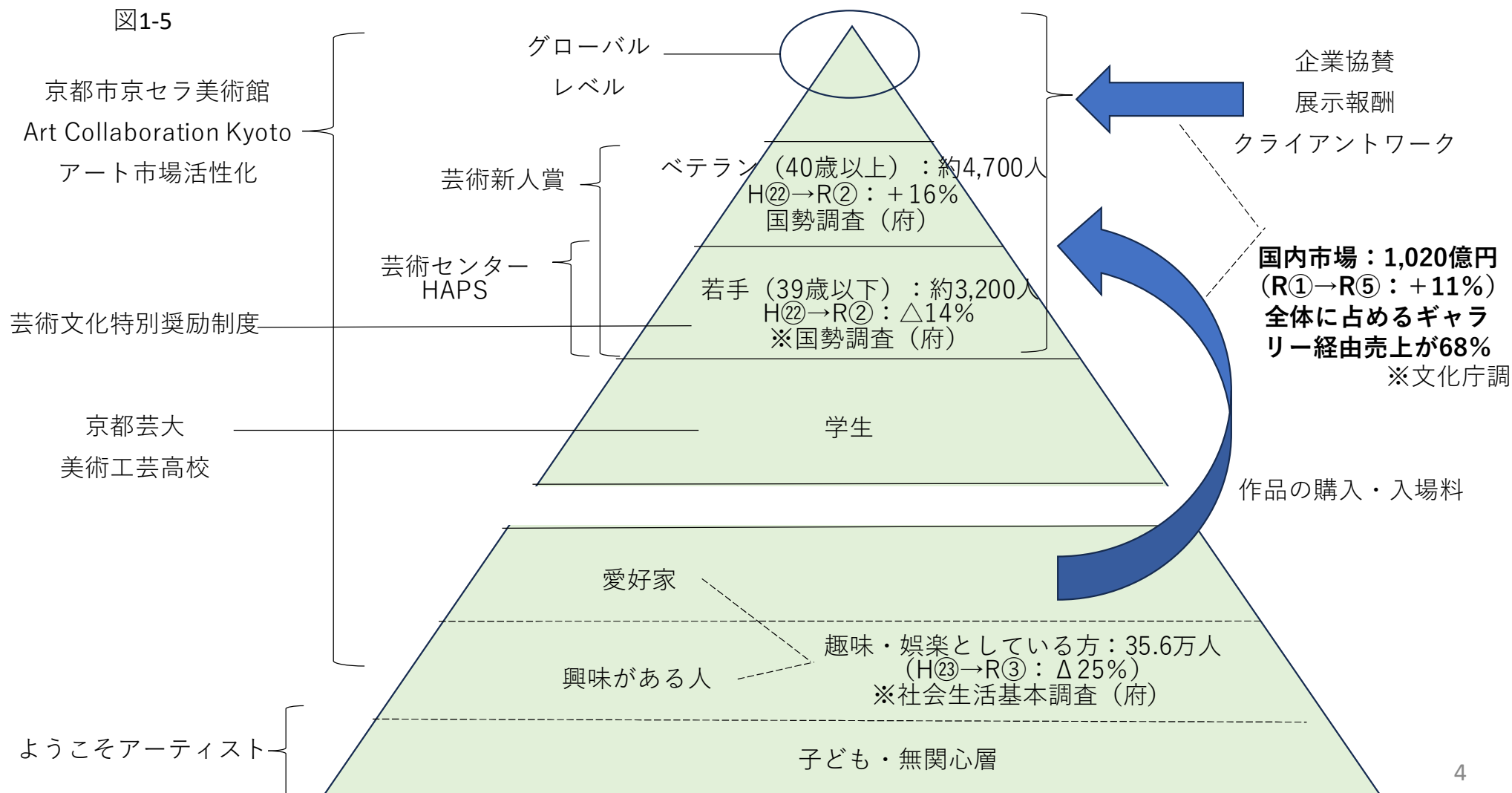
(注1) 行動者率: ある余暇活動を、1年間に1回以上行った人(回答者)の割合。以下同じ。

(注2) 社会生活基本調査で公表されているデータうち、直近の2021年は、コロナ禍の影響を受けていると考えられる。

①美術分野

■分野の人的体系と京都市の施策

- 絵画、彫刻、美術工芸等の視覚的な芸術表現を指し、古美術～近代美術、現代アート等が存在
- 本市施策では一番のボリュームゾーンであるが、若手が減少する一方、ベテランが増加
- 国内市場は拡大しているが愛好家等は減少。コレクターや企業の動向が市場に影響すると推測される

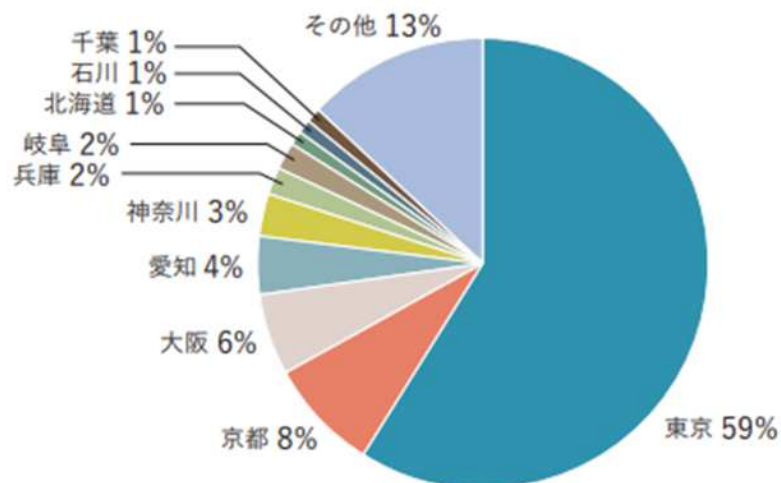


①美術分野

■施設状況（モノ）

- 美術分野のディーラー・ギャラリー数が東京の約7分の1
- 一方、国際的アートフェア「Art Collaboration Kyoto」（京都府主催）が大規模かつ継続的に開催されている

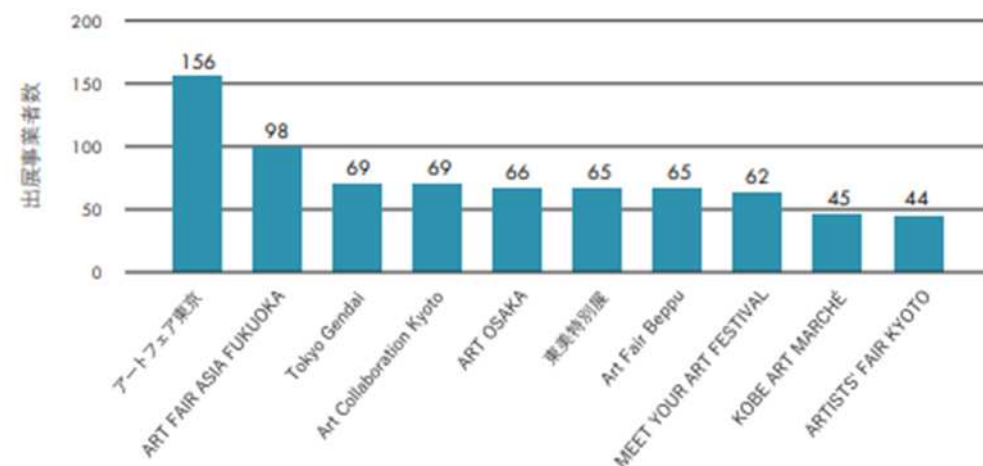
図1-6 日本におけるディーラー数の地域別構成比



© Arts Economics (2024)。国立アートリサーチセンター (NCAR)、全国美術商連合会 (JADAN)、Tokyo Art Beat、美術手帖のデータに基づく。

（資料：文化庁「The Japanese Art Market」）

図1-8 日本の主な10アートフェアの出展事業者数



© Arts Economics (2024)。文化庁「令和6年度 アートエコシステム基盤形成促進事業：国際的なアート市場における日本市場の現状調査」事務局より提供のデータに基づく。

（資料：文化庁「The Japanese Art Market」）

①美術分野

■施設状況（モノ）

表1-3 美術博物館数(令和3年度)※面積当たりの美術博物館数上位20位のみ抜粋

区分	登録博物館	博物館相当施設	博物館類似施設	合計	面積(k㎡)	面積当たりの美術博物館数	順位
全 国	360	97	604	1,061			
栃 木	11	—	26	37	6,408	0.005774	12
埼 玉	6	1	6	13	3,768	0.00345	19
千 葉	7	3	11	21	5,082	0.004132	15
東 京	26	19	36	81	2,104	0.038498	1
神 奈 川	11	6	19	36	2,416	0.014901	2
新 潟	13	3	21	37	10,364	0.00357	18
富 山	13	—	11	24	2,046	0.01173	3
石 川	14	2	21	37	4,186	0.008839	6
山 梨	7	3	19	29	4,201	0.006903	10
長 野	37	2	57	96	13,105	0.007325	8
静 岡	14	2	31	47	7,255	0.006478	11
愛 知	11	7	19	37	5,116	0.007232	9
滋 賀	5	1	8	14	3,767	0.003716	17
京 都	8	7	27	42	4,613	0.009105	5
大 阪	7	3	5	15	1,901	0.007891	7
岡 山	16	—	14	30	7,010	0.00428	14
広 島	12	1	16	29	8,480	0.00342	20
香 川	6	—	12	18	1,862	0.009667	4
福 岡	5	3	11	19	4,847	0.00392	16
佐 賀	5	2	6	13	2,440	0.005328	13

(資料:社会教育調査)

表1-4 京都の主な芸術を学べる大学と学生数

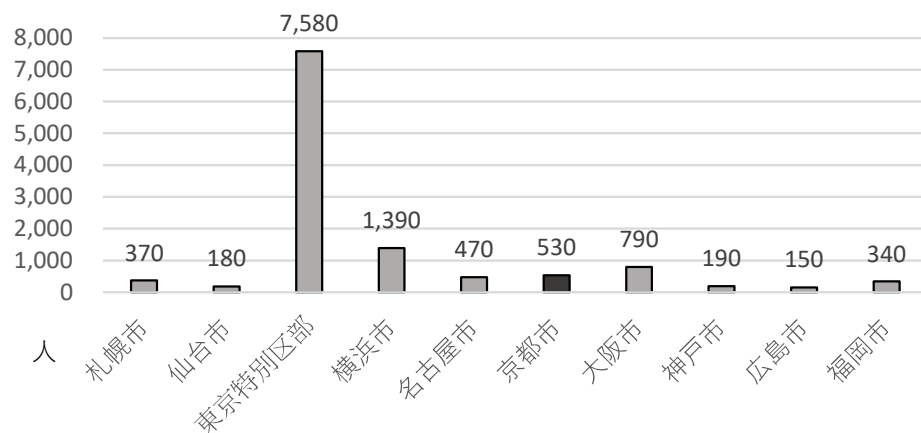
名称	京都市立芸術大学	京都嵯峨美術大学	京都嵯峨美大学(短期大学部)	京都精華大学	京都芸術大学(旧造形)	京都美術工芸大学	成安造形大学	合計
区分	公立	私立		私立	私立	私立	私立	
本部所在地	京都市	京都市		京都市	京都市	京都市	大津市	
芸術系学生数	1,065	726	478	1,618	4,842	1,058	895	10,682

②音楽分野

■人材状況（ヒト）

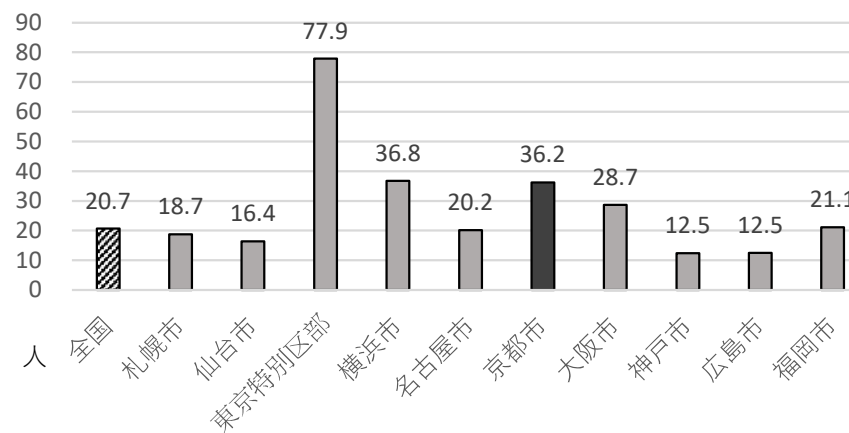
●【プロ層】人口比では、京都市は東京都区部について3位

図2-1 音楽家数（2020年）



（資料：国勢調査）

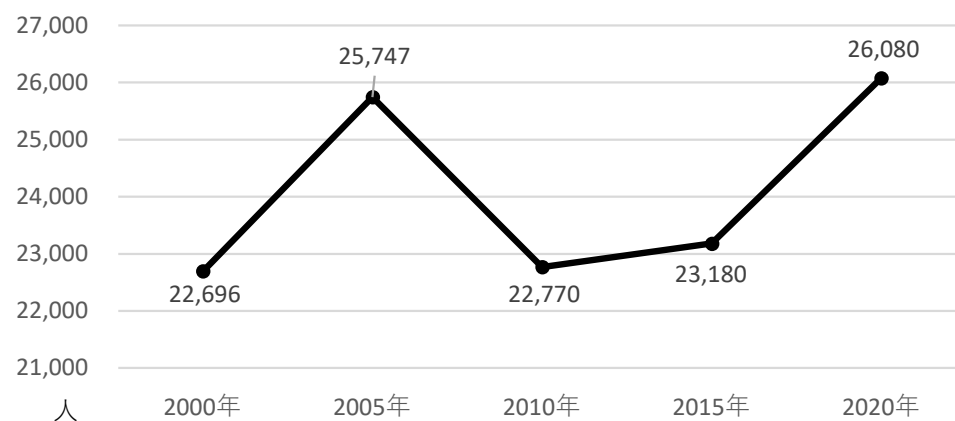
図2-2 人口10万人当たり音楽家数（2020年）



（資料：国勢調査）

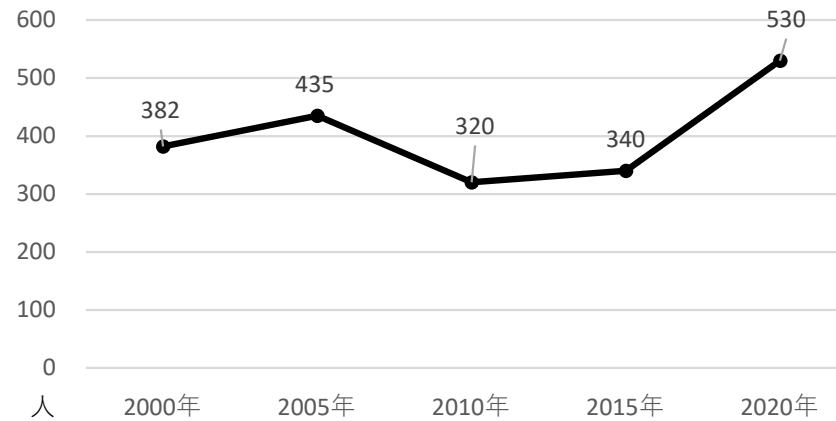
●【プロ層】京都市のプロ数は、全国のプロ数の推移と概ね同様の傾向を示している

図2-3 全国のプロの音楽家数の推移



（資料：国勢調査）

図2-4 京都市のプロの音楽家数の推移



（資料：国勢調査）

②音楽分野

■活動状況（コト）（社会生活基本調査より）

●【アマチュア層】音楽系の趣味を実践している人の割合は、他都市に比べ平均的

表2-1 趣味として楽器演奏をしている行動者率(単位: %)

	2001年	2006年	2011年	2016年	2021年
全国	11.3	10.5	9.6	10.9	10.2
北海道	11.7	10.0	9.0	9.1	9.5
宮城県	10.7	11.1	9.9	10.6	9.8
東京都	12.6	11.3	11.9	14.3	14.5
神奈川県	12.4	13.7	11.0	13.8	12.1
愛知県	11	11.1	10.8	12	11.2
京都府	12.6	12.6	9.9	12.4	11.4
大阪府	11.3	10.2	9.4	10	10.0
兵庫県	11.1	10.4	10.1	12	10.1
広島県	12.2	9.9	10.1	10.6	9.0
福岡県	11.5	9.0	7.9	9.7	8.6

(資料: 社会生活基本調査)

表2-2 趣味として邦楽をしている行動者率(単位: %)

	2001年	2006年	2011年	2016年	2021年
全国	1.6	1.9	1.7	2.9	3.0
北海道	1.2	1.8	1.9	2.8	2.7
宮城県	1.6	2.3	1.9	4	2.9
東京都	2.2	2.4	2.1	3.2	3.5
神奈川県	1.6	2.4	1.6	3.4	3.2
愛知県	1.8	2.3	1.7	3.5	3.2
京都府	1.7	1.8	1.8	3.4	3.3
大阪府	1.4	1.8	1.8	2.8	3.4
兵庫県	1.4	1.8	1.2	2.9	2.6
広島県	1.9	1.9	2.1	2.8	3.4
福岡県	1.7	1.7	1.6	2.9	3.5

(資料: 社会生活基本調査)

表2-3 趣味としてコーラス・声楽をしている行動者率(単位: %)

	2006年	2011年	2016年	2021年
全国	3.0	2.8	2.8	1.7
北海道	2.8	2.1	2.2	1.3
宮城県	3.2	2.8	2.7	1.5
東京都	3.3	4.1	3.9	2.1
神奈川県	3.6	3.4	4.4	2.2
愛知県	3.0	2.6	2.5	1.6
京都府	3.4	3.5	3.8	1.7
大阪府	3.1	2.5	2.9	1.3
兵庫県	3.4	3.5	3.8	1.9
広島県	3.0	3.0	2.2	1.9
福岡県	2.1	2.2	2.6	1.4

(資料: 社会生活基本調査)

(注)2001年以前は「コーラス・声楽」の選択項目がない

②音楽分野

■活動状況（コト）（社会生活基本調査より）

●【鑑賞】鑑賞者の割合は減少傾向だが、他都市に比べ、クラシックは比較的高い

表2-4 京都府民のコンサート鑑賞行動者率の推移（単位：％）

		2001年	2006年	2011年	2016年	2021年
全国	クラシック	9.6	9.3	8.6	10.1	3.9
	ポピュラー	13.5	12.2	12.4	13.7	5.9
北海道	クラシック	10.3	9.7	9.0	8.7	3.9
	ポピュラー	14.2	12.5	12.9	12.6	5.6
宮城県	クラシック	9.7	8.8	7.9	9.4	3.8
	ポピュラー	14.9	12.0	13.2	14.0	5.5
東京都	クラシック	12.9	13.9	12.3	14.6	6.2
	ポピュラー	15.6	15.9	15.8	18.0	8.3
神奈川県	クラシック	11.4	12.2	10.2	13.8	4.8
	ポピュラー	15.1	14.0	14.5	16.7	7.9
愛知県	クラシック	9.0	8.7	9.1	9.5	3.9
	ポピュラー	15.1	13.6	13.5	13.0	6.7
京都府	クラシック	11.8	10.8	9.9	10.6	4.4
	ポピュラー	15.6	14.3	12.8	15.2	7.6
大阪府	クラシック	8.6	8.8	7.6	9.6	3.8
	ポピュラー	14.4	11.9	12.8	13.6	7.7
兵庫県	クラシック	10.5	9.9	10.0	11.1	4.5
	ポピュラー	13.5	11.9	13.8	15.0	5.9
広島県	クラシック	11.5	9.7	8.8	8.7	3.8
	ポピュラー	13.9	12.3	13.8	12.4	5.3
福岡県	クラシック	8.4	8.5	7.9	9.3	3.5
	ポピュラー	12.5	12.0	11.5	12.5	6.1

（資料：社会生活基本調査）

②音楽分野

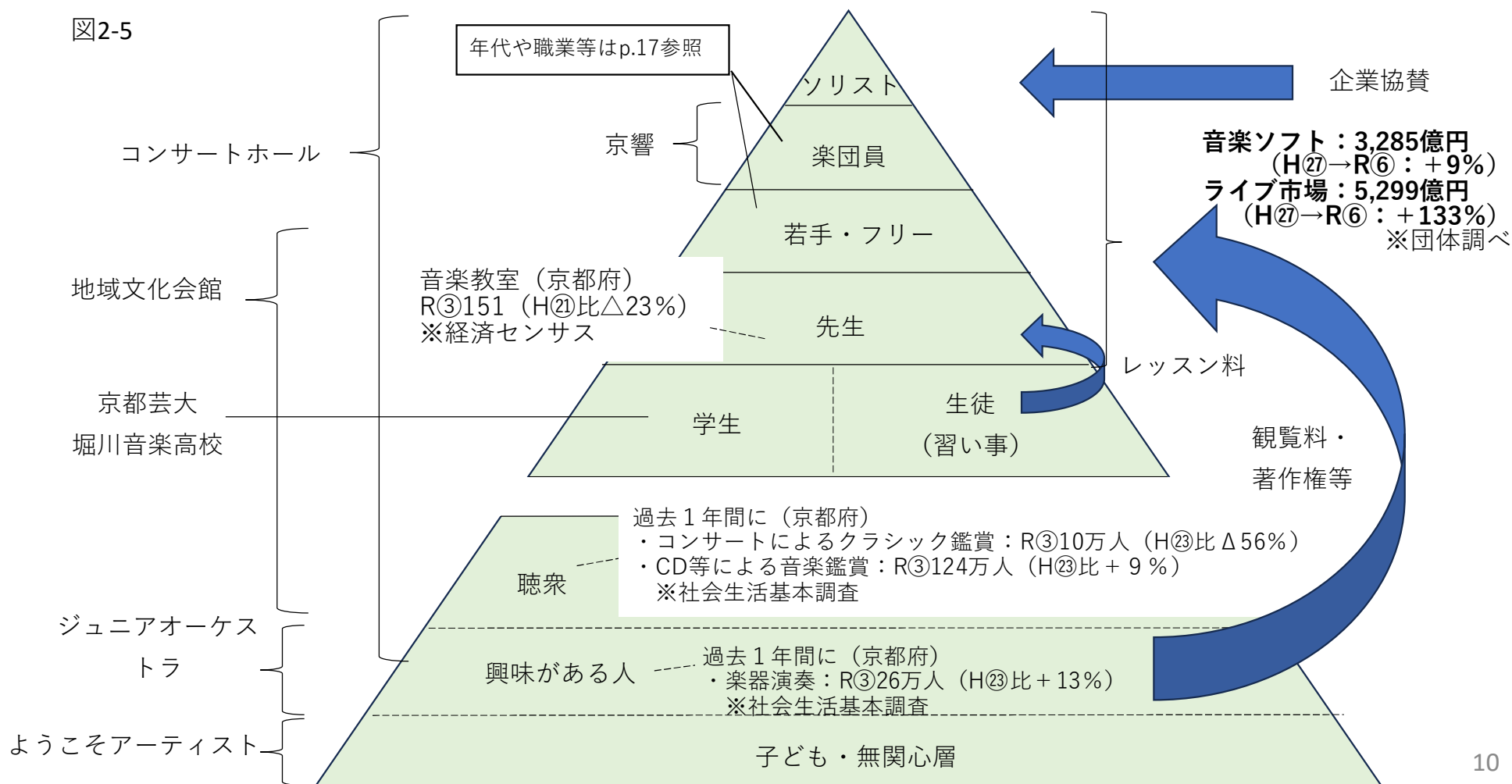
■分野の人的体系と京都市の施策（主にクラシック）

○多種多様な分野が存在し、市場は主に音楽ソフトとライブで構成されており、拡大傾向が続く

※音楽ソフトは、CD等（H27比較△20%）→音楽配信（H27比較+162%）への移行が顕著

○ライブ市場は急拡大しているが、約90%がポップス等であり、クラシックは7%程度

○本市はクラシックに関して、頂点の伸長からすそ野の拡大まで幅広く施策を展開しており、他都市にはない強みを持つ



②音楽分野

■施設状況（モノ）

●市文化施設での音楽関係での施設使用回数は、令和2年度のコロナ禍時からは回復傾向にある。

図2-6 ロームシアター京都の音楽関係での使用数推移

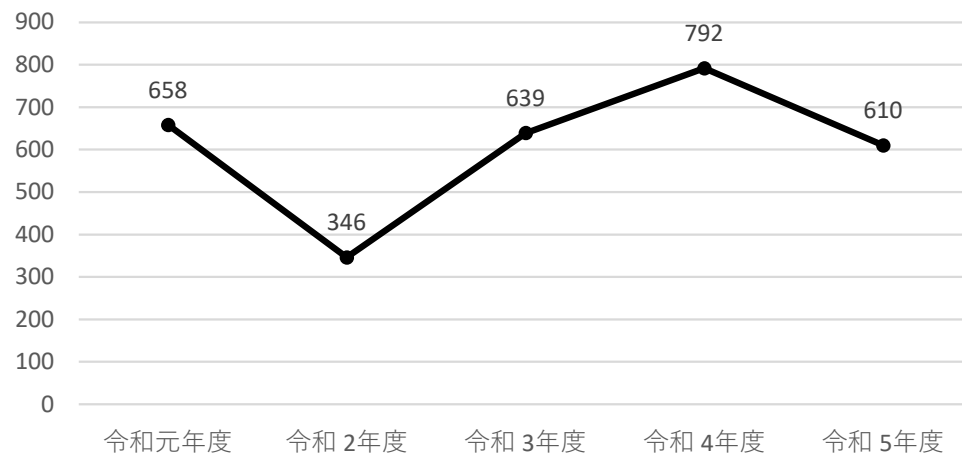


図2-7 京都コンサートホールでの使用数推移

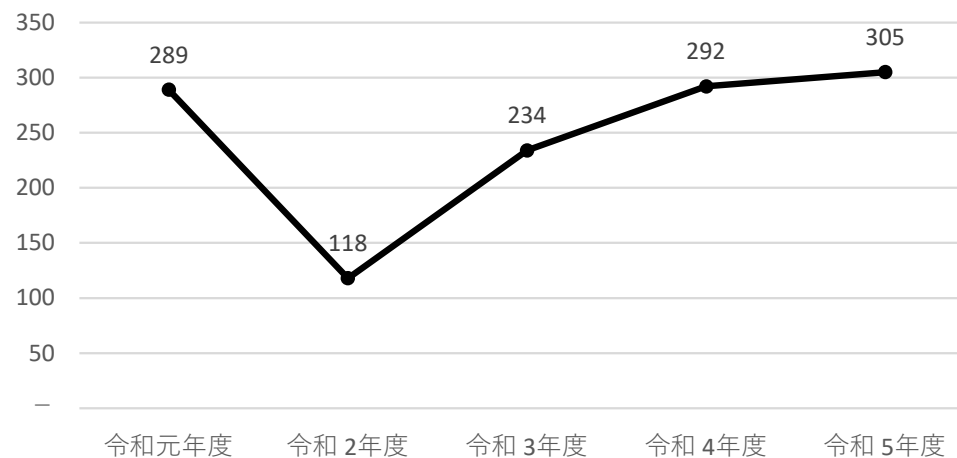


図2-8 文化会館の使用数推移（5館合計）



③舞台分野

■人材状況（ヒト）（舞踊家、俳優、演出家、演芸家）

●【プロ層】人口比で見ても、京都市のプロ数は少ない

図3-1 舞台家数（2020年）

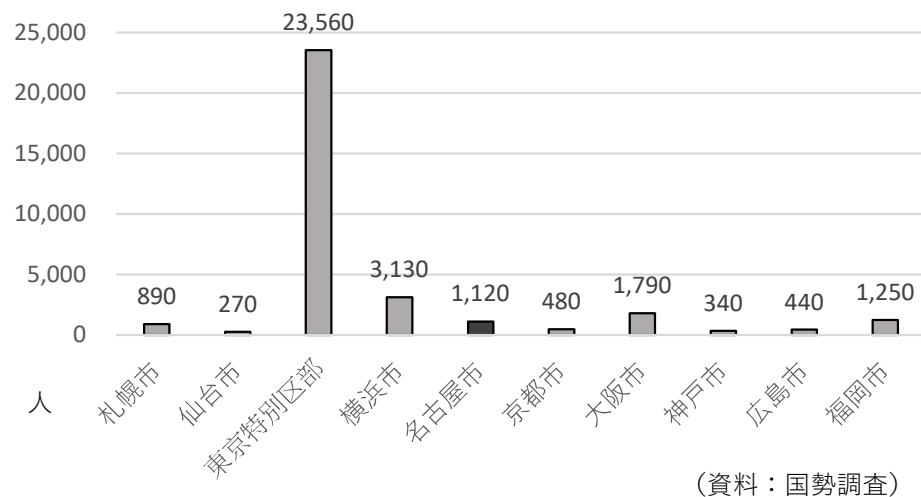
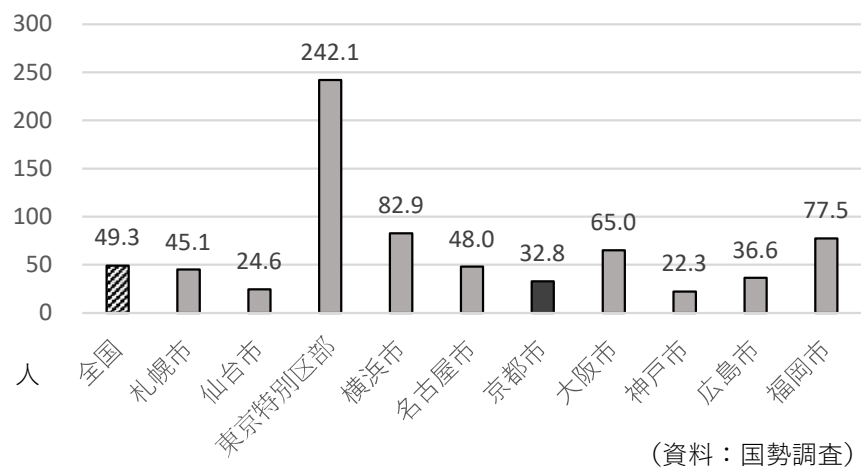


図3-2 人口10万人当たりの舞台家数（2020年）



●【プロ層】全国がおおむね増加傾向であるのに対し、京都市は減少傾向

図3-3 全国のプロの舞台家数の推移

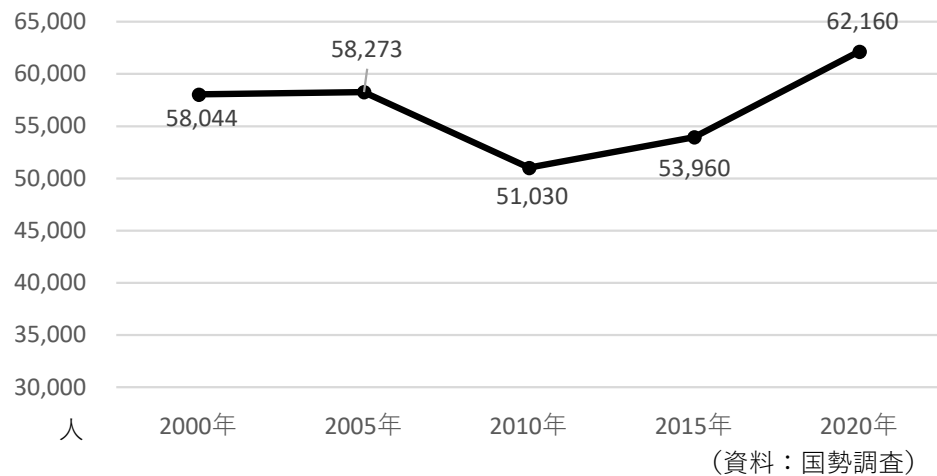
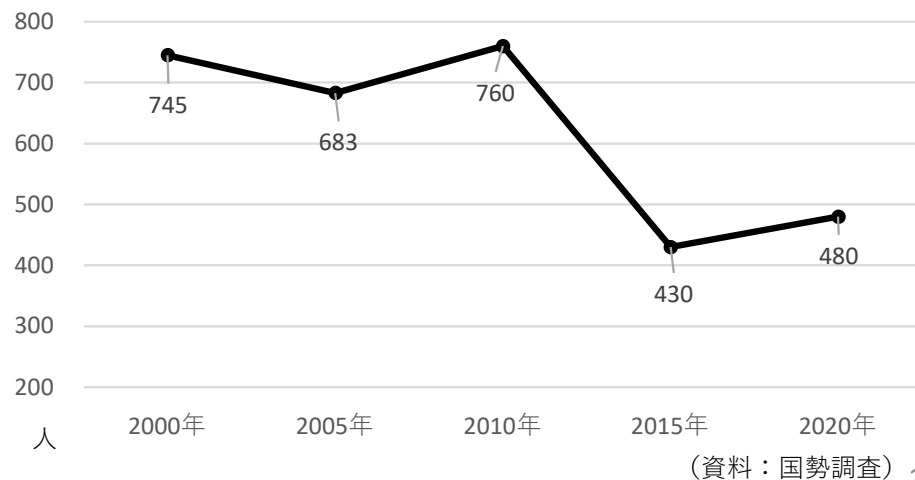


図3-4 京都市のプロの舞台家数の推移



③舞台分野

■活動状況（コト）

- 【鑑賞】全国的に減少傾向にあり、京都府も同様

表3-1 京都府民の舞台鑑賞行動者率の推移(単位: %)

	2001年	2006年	2011年	2016年	2021年
全国	16.4	14.2	11.7	14.5	6.7
北海道	12.1	10.3	9.6	10.8	4.6
宮城県	15.3	12.4	10.4	13.2	6.4
東京都	22.5	21.5	18.3	22.2	12.6
神奈川県	17.9	16.7	13.8	16.8	7.8
愛知県	19.8	16.5	13.1	15.2	6.8
京都府	18.3	15.3	14.6	17.0	8.8
大阪府	18.6	16.9	12.4	16.7	8.2
兵庫県	16.8	15	13.1	16.0	6.4
広島県	17.8	11.8	10.1	12.4	5.5
福岡県	16.1	13.9	11.2	13.0	7.1

(資料: 社会生活基本調査)

③舞台分野

■施設状況（モノ）

●市文化施設での演芸関係での施設使用回数は、令和2年度のコロナ禍以前よりも増加している。

表3-2 ロームシアター京都の使用数推移

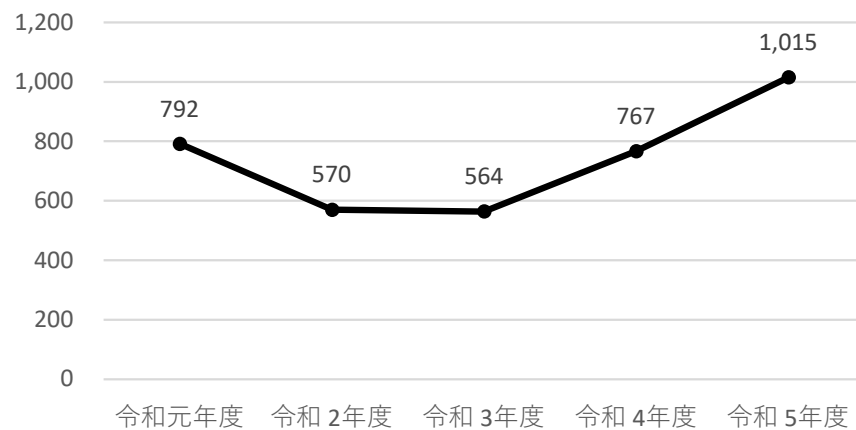
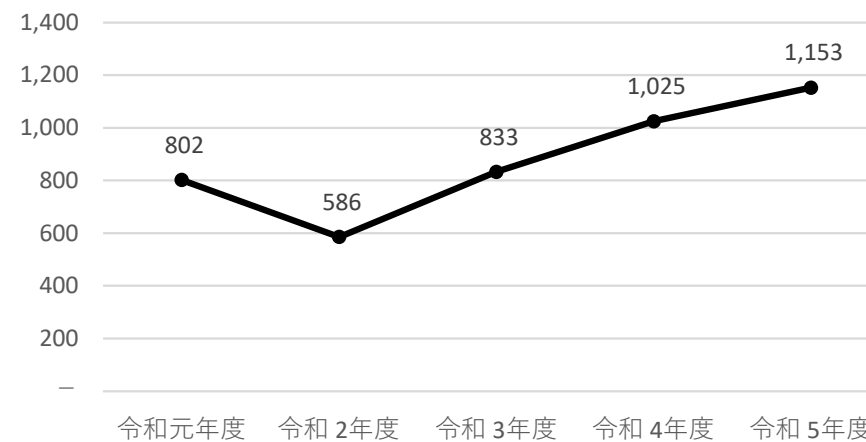


表3-3 文化会館の使用数推移（5館合計）



④生活文化

■活動状況（コト）（社会生活基本調査より）

●【アマチュア層】いずれの分野も全国的に減少傾向。京都府は他都市に比べ高い数値だが、同じく減少気味

表4-1 趣味としての書道の行動者率の推移(単位: %)

	2006年	2011年	2016年	2021年
全国	4.5	4.1	4.1	3.4
北海道	4.2	3.4	2.6	3.0
宮城県	4.8	4.1	2.9	3.0
東京都	4.4	4.0	3.8	3.0
神奈川県	4.0	3.9	4.3	3.4
愛知県	5.4	4.3	4.4	4.1
京都府	5.5	4.2	4.7	3.5
大阪府	4.4	3.8	3.8	3.3
兵庫県	5.8	4.4	4.9	4.0
広島県	4.3	4.9	3.7	3.6
福岡県	4.3	4.1	4.1	3.0

※2001年以前は「書道」の項目がない

表4-2 趣味としての華道の行動者率の推移(単位: %)

	2001年	2006年	2011年	2016年	2021年
全国	3.8	2.6	2.0	1.8	1.3
北海道	2.7	2.0	1.5	1.2	1.0
宮城県	3.9	2.4	1.1	1.5	0.9
東京都	3.4	2.6	1.9	1.7	1.0
神奈川県	3.0	2.6	1.8	1.8	1.0
愛知県	4.2	3.2	1.9	1.7	1.3
京都府	4.6	3.5	2.8	2.8	1.7
大阪府	4.0	2.4	2.2	1.6	1.2
兵庫県	4.9	2.7	2.0	2.0	1.5
広島県	4.4	2.8	3.0	1.7	1.3
福岡県	3.7	2.5	1.9	2.3	1.2

表4-3 趣味としての茶道の行動者率の推移(単位: %)

	2001年	2006年	2011年	2016年	2021年
全国	2.4	1.9	1.5	1.6	0.8
北海道	1.9	1.8	1.1	1.5	0.7
宮城県	2.0	1.7	1.0	1.2	0.5
東京都	2.8	1.9	2.1	1.7	0.8
神奈川県	2.3	1.9	1.3	1.3	0.9
愛知県	3.1	2.6	1.6	1.8	0.9
京都府	2.9	2.9	1.9	2.5	1.2
大阪府	2.4	2.1	1.7	1.8	0.7
兵庫県	2.6	1.8	1.4	1.6	0.8
広島県	2.6	2.2	1.6	1.9	1.3
福岡県	1.8	1.7	1.1	1.4	1.1

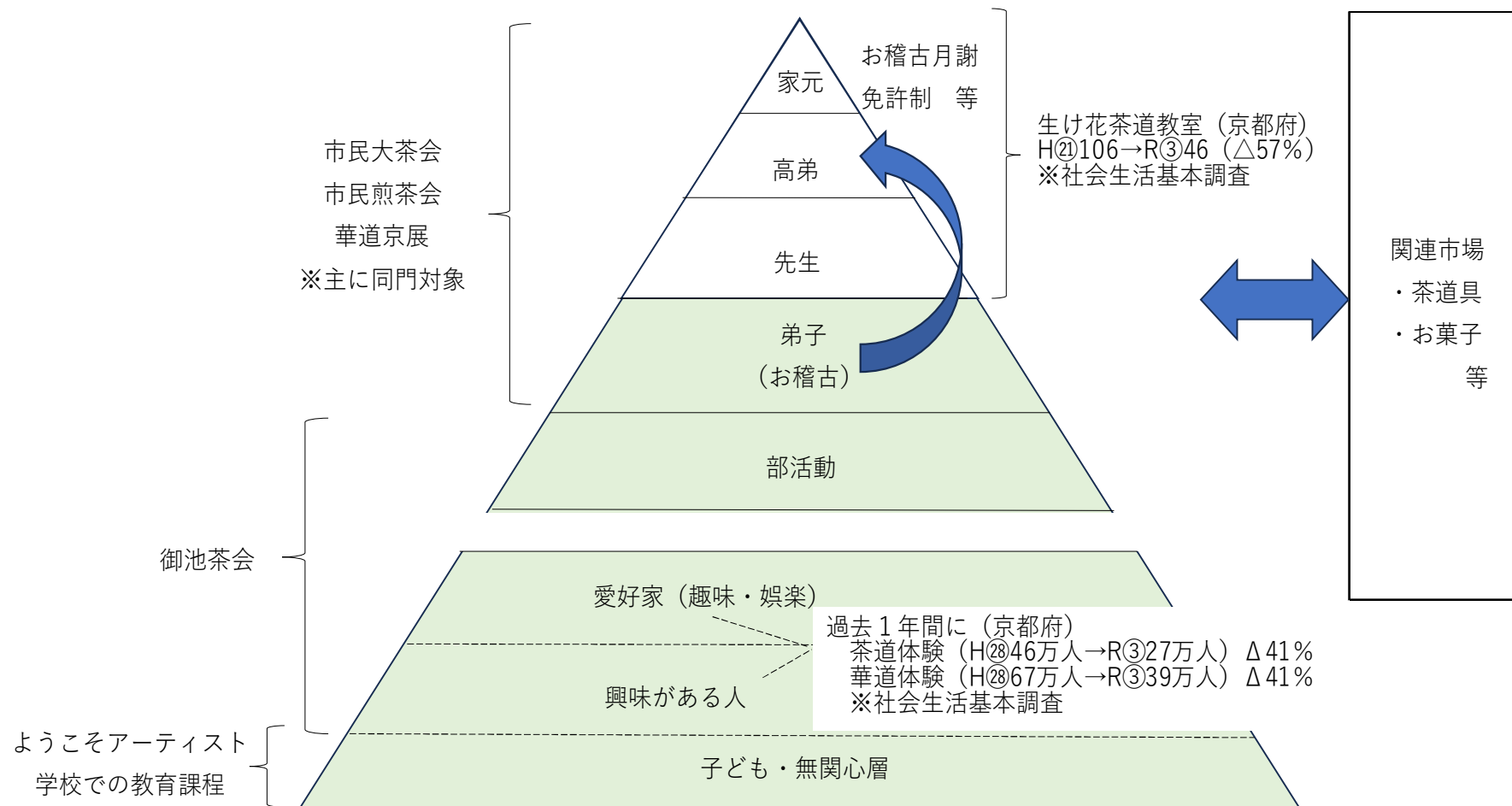
④生活文化

■分野の人的体系と京都市の施策（茶道・華道）

○これまで家元制度（許状・免許）に基づく財務基盤が形成されてきた

○市場動向は不明だが、愛好家等や事業者の減少もあり、家元制度を基盤とした市場は急速に縮小していると推測される

図4-1



⑤伝統芸能

■活動状況（コト）

図5-1 趣味としての邦舞・おどりの行動者率の推移(単位: %)

	2006年	2011年	2016年	2021年
全国	2.2	1.6	1.6	1.0
北海道	2.0	1.4	1.2	1.0
宮城県	2.8	1.7	1.6	0.8
東京都	2.3	1.5	1.6	1.5
神奈川県	2.0	1.4	1.9	0.9
愛知県	2.3	1.4	1.7	1.0
京都府	1.7	1.3	1.4	0.9
大阪府	2.0	1.3	1.6	0.8
兵庫県	2.2	1.0	1.2	0.7
広島県	1.8	1.4	1.8	1.2
福岡県	1.7	1.5	1.8	1.2

(資料: 社会生活基本調査)

全国的に減少傾向
京都府も同様に他都市との差は認められない

図5-2 幼少期の鑑賞体験と将来の関心の関連

	9歳以下で 体験したことがある割合		12歳以下で 体験したことがある割合	
	関心層	一般層	関心層	一般層
歌舞伎	42.3 [※]	15.8 [※]	53.8 [※]	52.6 [※]
日本音楽 (三味線・囃子・太鼓・長唄・義太夫など)	37.5	19.5	62.5	56.3
能楽(能・狂言)	31.8	17.2	61.1	60.1
人形浄瑠璃文楽	35.7 [※]	13.0 [※]	67.8 [※]	39.1 [※]
日本舞踊	44.1	32.3	58.8	51.7
寄席の芸能 (落語・講談・太神楽・漫才・奇術など)	46.9	29.6 [※]	71.9	51.8 [※]
雅楽	27.6 [※]	4.8 [※]	86.2 [※]	47.7 [※]
組踊	56.5 [※]	15.0 [※]	69.5 [※]	50.0 [※]

より低年齢層で体験した方が将来関心を持ちやすい

※能楽は、12歳以下では関心有無に大きな差は見られないが、9歳以下では顕著な差

※サンプル数が30以下のため参考値

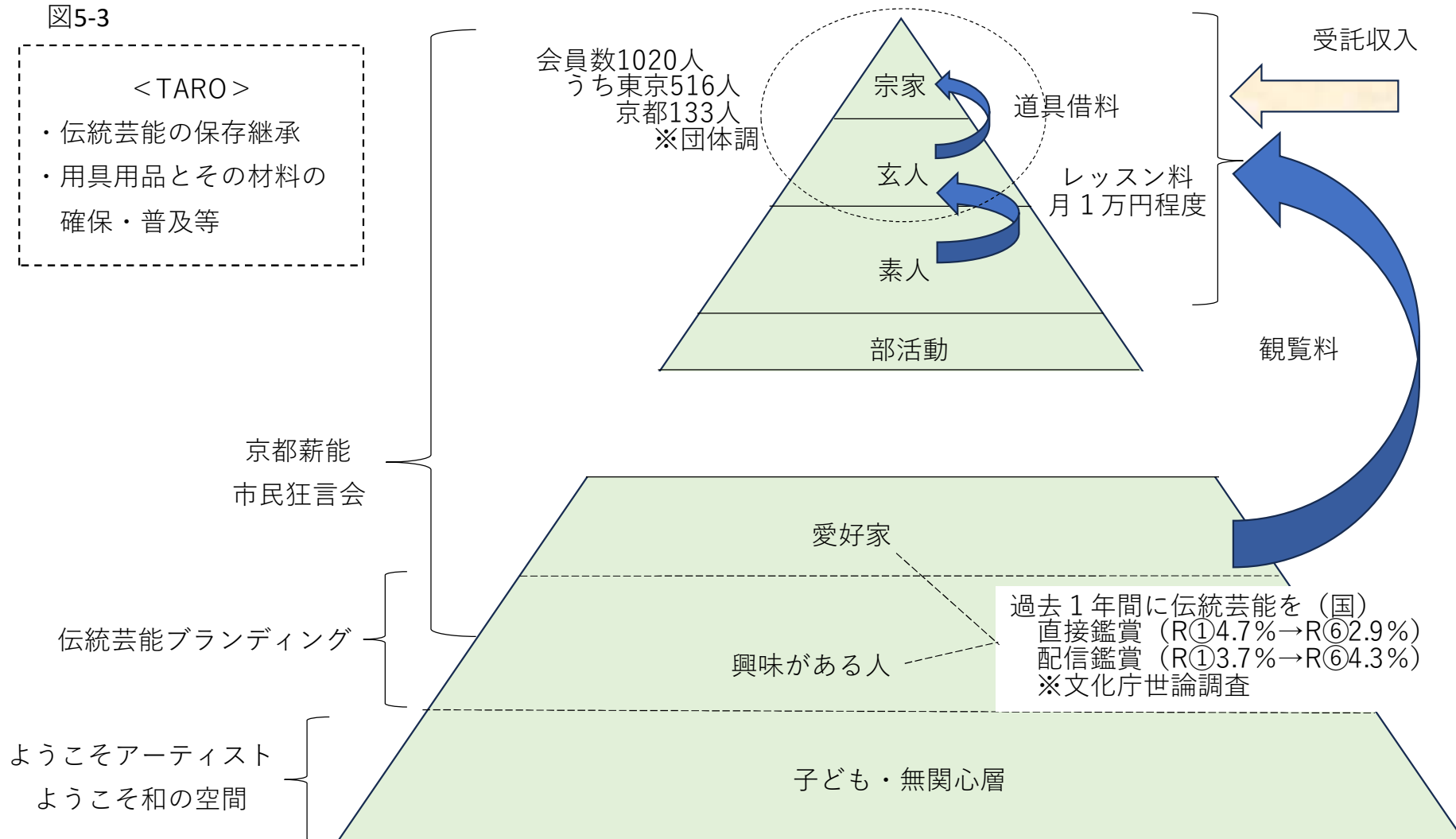
※日本芸術文化振興会：R⑤調査（サンプル数：関心層200、一般層1,000）

⑤伝統芸能

■分野の人的体系と京都市の施策（ここでは代表として能楽について）

- 主に観覧料+レッスン料等によって財務基盤が形成されているが不安定
- 愛好家等は減少しているが、幼少期に体験機会が創出されていると関心を持ちやすい

図5-3



⑥京都市の状況（文化芸術以外を含めての全体）

●過去10年間で人口が45,773人減少。

図6-1 京都市における10年間の人口動態

年次	自然動態 (出生と死亡)	社会動態 (転入と転出)	人口増減
26(2014)年	△ 3,072	1,583	△ 1,489
27(2015)年	△ 2,898	2,287	△ 611
28(2016)年	△ 2,807	2,359	△ 448
29(2017)年	△ 3,905	1,197	△ 2,708
30(2018)年	△ 4,697	1,650	△ 3,047
令和元(2019)年	△ 5,136	2,420	△ 2,716
2(2020)年	△ 5,681	△ 2,727	△ 8,408
3(2021)年	△ 6,745	△ 3,022	△ 9,767
4(2022)年	△ 8,463	3,471	△ 4,992
5(2023)年	△ 9,165	3,687	△ 5,478
6(2024)年	△ 10,144	4,035	△ 6,109

合計
△ 45,773 人

●京町家が減少し、京都特有の生活の風景が失われつつある

図6-2

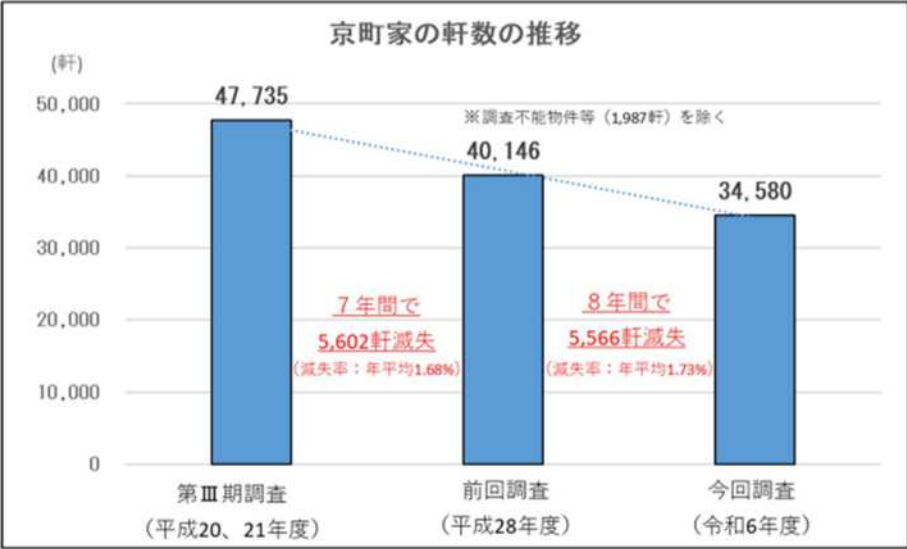


図6-3

